

平成27年度 鳥獣被害対策技術情報 特別号
(平成28年3月15日)



冬眠明けのクマに注意しましょう。



福島県農林水産部農業振興課

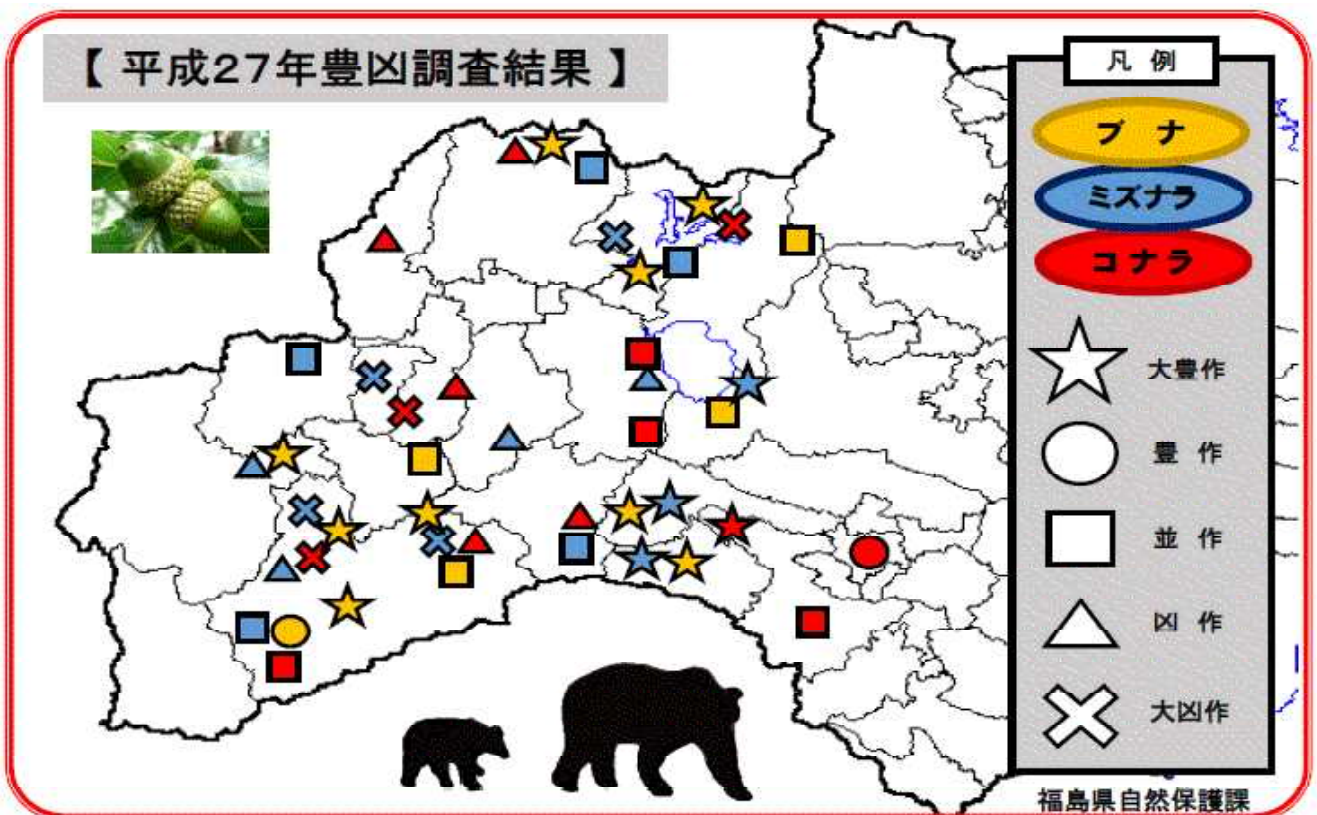
平成27年の秋は、ツキノワグマの餌となるブナなどの実が豊作でした。その結果、ツキノワグマは今冬の出産率や生存率が高まり、平成28年は出没が多くなることが危惧されます。

また、今冬は積雪が少なく融雪が早まっていることから、例年より早く冬眠から明けて行動を始めると考えられます。

冬眠明けのクマは、餌を求めて融雪の早い里地に下るほか、子連れグマが多いため人身被害の危険性が高まるので十分注意してください。

1 平成27年堅果類の豊凶調査

福島県自然保護課が取りまとめた結果では、ブナは県内全域で「豊作～大豊作」、ミズナラは中通り地方では「豊作」、コナラは中通り地方では「並～豊作」と会津地方のミズナラとコナラを除き豊作傾向となっています。これにより、出産率や生存率が高まると想定されます。



※福島県自然保護課のHPより引用

2 当面の対策

農作業などでの人身被害を未然に防ぐために、次のことに注意してください。

(1) クマの出没情報や痕跡に気をつける

出没情報のあったところには近づかないようにしましょう。里地でも、夕方～早朝のほか、日中でも降雨や霧が発生しているなど薄暗い時は活動が活発になるため注意が必要です。糞や足跡など痕跡を見つけた時は、すぐに引き返しましょう。

なお、足跡は、成獣であれば長さ15cm以上になります。畑のような柔らかい土では、通常、肉球がはっきりせず写真2のように楕円形の跡が残ります。

糞は食べたものがほとんど消化されずに出てくるため、新しい糞は食べた物の色を呈し、柿であれば柿色、クリであればクリーム色をしており、時間が経過すると写真3のように黒ずんできます。



写真1 ツキノワグマの足跡



図1 ツキノワグマの足跡の特徴



写真2 ツキノワグマの畑地での足跡
(撮影 NPO法人おーでらす)



写真3 ツキノワグマの糞
(撮影 NPO法人おーでらす)

(2) クマに自分の存在を知らせる

林縁部、やぶや川（沢）沿いで作業する際は、クマ鈴やラジオなど音の出るもので、クマに存在を知らせましょう。

(3) 子グマには絶対近づかない

子グマの近くには母グマが必ずいます。母グマは子グマを守るため、襲ってくる場合があります。子グマには絶対近づかないようにしましょう。

(4) 餌を野外に放置しない

クマを農地周辺に引き寄せないために、収穫残渣や生ゴミは放置せず、埋設するなど適切に処分しましょう。

(5) 目撃した場合、痕跡を見つけた場合

市役所や町村役場、警察署に速やかに連絡してください。

また、動物駆逐用煙火（花火）等で『追上げ』をしましょう。追上げは、クマが

里へ下り始める薄暮の頃（17～18時）、移動ルートを見極めて山へ向かって押し返すようにします。集落側から山側にゆっくり移動しながら複数箇所打ち上げると効果的です。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 3 9

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>